



イベントレポート

# ISTH2017に 参加して

近澤悠志 東京医科大学医学部医学科臨床検査医学分野助教

## はじめに

2017年7月8～13日の日程で、ドイツ・ベルリンで開催された第26回国際血栓止血学会(ISTH)に参加いたしました。ドイツの首都ベルリン、日本の首都東京。主要国首脳会議に参加するこれら両国の首都を結ぶ直行便の路線がないことを今回初めて知り、驚きました。学会とはほぼ時を同じくして、7月7～8日の日程でドイツ・ハンブルグにてG20サミットが開催されておりました。ハンブルグに警官隊の人数が割かれることがベルリンの治安に悪影響を及ぼさないかどうか案じながらも、心のどこかでは「ビールの国ドイツ」と眩きながら、通常であればデザートを食べるタイミングでも最後までビールをいただくことと意気込み、空路で現地に向かいました。

夏の炎天下でビールを飲むことを夢見て降り立ったベルリンはまさかの雨。到着時の気温は24度で、勉強に勤しむのに持ってこいの言わば恵みの雨でありました。浮足立った観光気分を戒めるかのような環境であり、私の2本の足はいつしか真っすぐに学会場に向かうのでありました。

学会場は Messe Berlin という、ベルリン市内の中心部まで電車で15～20分程度の距離に位置する会場で、Sパー

ンと呼ばれる鉄道の Messe Nord という駅が隣接している場所でした。宿泊先はベルリン市内中心部としましたが、鉄道でのアクセスは非常によかったです。日本と違って、改札のシステムのない鉄道であり、旧東ドイツの名残であろう独特の雰囲気を感じました。

ベルリンの壁より遥かに高い、言葉の壁に悩まされつつも、私なりに興味を持って触れてきたことをここで報告させていただきます。

## 免疫寛容療法について

今回私が発表した演題が、免疫寛容療法についての報告であったこともあり、この話題についてまず触れてみたいと思います。

一般的にインヒビター発症後の出血、とくに関節内出血を予防することは患者さんのその後のADLを左右するので非常に重要なテーマとなります。低力価のインヒビターなら自然消失することもあります。自然消失せずに臨床的にも出血を起こすような場合には免疫寛容療法も視野に